

全小社研

・発行所
・全国小学校社会科研究協議会
・東京都板橋区上板橋1-3-1
・発行人 和田幹夫
・編集人 小澤伸生

北海道、熊本、

二つの全国大会に期待する

全国小学校社会科研究協議会会長
東京都板橋区立上板橋第四小学校長

和田 幹 夫



平成二十九年告示学習指導要領の趣旨や目標、内容の具現化を図るとともに、令和三年一月の中央教育審議会答申『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」を踏まえ、意欲的な研究実践がなされていることと存じます。

三年が経過した現在も、未だ収束が見えない新型コロナウイルス感染症の世界的拡大や、世界を震撼させたロシアによるウクライナ侵攻などの出来事は、私に、世界と自分とのつながりや、世界平和、国際協力、共生などの大切さを考えさせる大きな契機となりました。それとともに、平和で民主的な国家及び社会の形成者としての資質・能力の基礎を育む社会科教育の重要性を改めて強く問いかけているように感じます。

さて、今年度は十月二十七日(木)に第六十回全国小学校社会科研究協議会研究大会北海道大会が「社会を知り、世界を切り拓く北国の子の育成」を大会主題に掲げ、開催されます。本研究では社会における課題の解決や新たな価値を創り出す取組、持続可能な社会をめざす取組など、具体的な人物の営みを教材として積極的に取り上げ、見方・考え方を働かせながら、協働的に追究するとともに、社会的事象の意味を考えることを通して理解を深め、確かな社会認識を育み、社会に主体的にかかわろうと

する子供の育成を目指しています。ここには、「人物の営み」「見方・考え方」「協働的」「確かな社会認識」など、これからの社会科学習で大切にしていきたいポイントがしっかりと盛り込まれています。どのような教材で、どのように学習を展開し、身に付けた資質・能力をどのように評価するのか、北海道の研究に大いに期待したいと思います。

二月二日(木)、三日(金)には、令和四年度全国小学校社会科研究協議会研究大会熊本大会が「持続可能な社会の創り手を育てる社会科学習を研究主題に掲げ、開催されます。本研究では、「教材」、「学習モデル」、「評価」、「カリキュラム」の四つを視点にして、社会的事象を自分のこととして捉え、主体的・対話的に追究し、考えながら、知識・技能・思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力、人間性等を統一的に育んでいくことを目指しています。これまでの課題でもある評価、カリキュラムを重点として取り上げるなど、意欲的な提案が期待されます。

感染症の状況は今後も予断を許しません。二つの大会が無事開催され、その成果が、各地区の社会科教育のますますの発展につながることを祈念しています。

未来を創る子供の育成

全国小学校社会科研究協議会副会長
東京都杉並区立荻窪小学校長

西 脇 裕 高



くもち、研究方法を工夫しながら、実践的な研究を続けて来ています。全小社研東京大会も目前となり、「オール東京」の体制で研究組織の充実を図り、研究を進めています。

繰り返す新型コロナウイルス感染症の波は、未だ収まりません。そんな状況においても、全国各地域の学校では、教育活動に工夫を重ねながら、子供たちの成長を支え続けています。先の見通せない厳しい変化に対応し、よりよい社会を創っていくとする力は、社会科学習で育むものと信じています。昨年度の大阪大会、佐賀大会は、参集できない状況の中でも、全国どこにいても研究の実践に触れ、共に協議することができたことは、大変嬉しいことでした。運営面での苦労は、並大抵のことではなかったと察しますが、間違いない全国社会科研究は途切れることなく、大きく伸展していると実感しました。

わたしたち東京都小学校社会科研究会も、コロナ禍でも「研究の歩みを止めない」という決意を強

主体的に問いを追究する工夫、見方・考え方が働く学習活動の工夫、子供の学びを確かにする評価の工夫を重点として進めています。大会に向けて、研究理論の深化が図られる中で、共通理解を進め、研究授業を繰り返して、実践的な研究の取組を重ねています。全国の皆様と、共に語り合える研究の場をもてることを楽しみにしています。

第六十回全国小学校社会科研究協議会北海道大会

大会主題 『社会を知り、世界を切り拓く』

北国の子の育成

北海道大会実行委員長
札幌市立八軒西小学校長

白 崎 正



一 はじめに

戦争が起きる時代です。一つの戦争を通して浮かび上がってきたことは、世界は混沌に満ちており、多様な見方・考え方が混在し、その背景には様々な要素が深く複雑に入り組んでいるということ事です。画一的な見方・考え方は、入り組んだ一つ一つのピースをつなぎ合わせることも到底できません。

今、目の前にいる子どもたちが、将来、民主主義を守り、平和を維持し、かけがえのない命の尊さを知る大人になるために、社会科という教科の果たす役割は何か。私たちがたどりついた結論はただ一つ。「問題解決学習を究める」ということです。

これからの時代を生き抜く子どもたちに必要な力は、発想を転換し、情報活用能力を駆使し

ながら多様なピースをつなぎ合わせ、思考力、判断力、表現力を発揮して問題を解決する力です。

「第六十回全国小学校社会科研究協議会北海道大会」への期待や課題は山積です。

① 学習指導要領はいかに浸透しているのか。子どもたちの社会的見方・考え方を鍛える、確かな手立てのある授業になっているのか。

② 一人一台のクロームブックは、社会科授業に何をもたらしたのか。本当に効果的な活用になっているのか。

③ もうコロナ前には戻らない。コロナ等の感染症対策を踏まえた、新しい研究会の在り方とは、どのようなものなのか。全国の皆様からご批評ご指導を賜り、実り多い大会になるよう願っております。よろしくお願いいたします。

二 大会の概要

(一) 大会主題

社会を知り、世界を切り拓く
北国の子の育成
く見方・考え方を鍛え、生き

て働く資質・能力を確かに育む
社会科の学び

(二) 研究の内容

北海道社会科教育連盟は、「雪や寒さは宝である」という教材観をもち、「発想を転換する社会科学習」を不易の命題としています。

17本の公開授業では、発想を転換して持続可能な社会を構築したり、社会貢献をしたりしている人々の営みを教材化します。困難や課題を解決したり克服したりする営み、新たな価値を生み出す営み、持続可能な営みなど、よりよい社会の仕組みを形づくり支えている人間の営みを位置付けて、社会的事象の意味や特色の理解の質を深める、そうした授業づくりに挑戦します。

研究内容Ⅰ

社会的事象を創出する人物の営みに学ぶ教材化

・一見するとマイナス（課題がある）に見えても、大きなプラス（成果）を生み出す営み。
・今はマイナス（課題がある）かもしれないが、いずれ大きなプラス（成果）につながる営み。

・目先の利害にとらわれず手間ひまかけてプラスの価値を生み出している営み。
それらの背景になる真の価値を子どもが見いだせるようにします。教師は教材化の視点を定め、子どもは追究の視点をもち、

学びを深めていきます。

研究内容Ⅱ

理解の質を高め、確かな社会認識を育む単元構成

単元を通して理解の質が高まり、確かな社会認識が育まれた子どもの姿を目指します。

・つかむ（単元を貫く学習問題の設定と学習計画の立案）
・調べる（一人一台端末の効果的な活用）
・深める（社会的事象の意味を考える（一時間の設定））
・まとめる（育まれた資質・能力を発揮できる終末）

という流れで単元を構成します。子どもの活動を吟味し、子どもの思考の流れを想定。一時間一時間積み上げる知識を確認し、働かせる見方・考え方を検討していきます。

研究内容Ⅲ

社会的事象の意味を考える一時間

公開する一時間は、取り上げる人物の営みの価値が色濃く表れる時間であり、単元の中で、「社会的事象の意味や特色の理解の質を高める」ことにつながる学習です。社会科を学ぶ奥深さ、社会科の醍醐味を味わえる一時間とも言えます。

(三) 開催方法の概要

開催方法につきましては、参事会とオンラインによるハイブリッド型の一日開催とさせていただきます。

授業は全て事前にオンラインで配信します。録画したものを編集し、その場で参観しているかのようなリアル感を得られるようにします。

学年別授業研究会の話し合いは、参会とオンライン参加のハイブリッド。会場での参加人数は、分科会毎に異なります。

全国、全道各地区からの学年別課題研究会は、研究紀要による紙上提案。読み応えのある、最新の研究実践が詰まった研究紀要となります。

①日時・会場

十月二十七日（木）

十時～十四時十五分

会場 カナモトホール

・全体会・大会主題提案

・特設授業放映（昼食休憩）

・記念シンポジウム

十四時三十五分～

十六時四十五分

会場 カナモトホール

さっぽろテレビ塔

・学年別授業研究会

・閉会行事

②指導講師

文部科学省初等中等教育局教育課程課

教科調査官

小倉 勝登 先生

大妻女子大学

教授 澤井 陽介 先生

※詳細や申し込みは、全小杜研北海道大会ホームページをご覧ください。

<https://zenshosya2022hok>

kaido.com/

第一会場

札幌市立八軒西小学校

校長 白崎

正

◆学校紹介

本校は、札幌市西区のまちの発展に伴い、昭和五十二年、八軒小学校から四百二十六人の児童が移り開校しました。開校当時は、児童の八割が国家公務員宿舎から通う子弟であり、現在も国家公務員、北海道庁、北海道警察署等の公務員宿舎と新興住宅が立ち並び、落ち着いた文教地区です。校区は都心部から車で十五分圏内にありながら、手稲山を臨み、琴似発寒川が流れ、元北海道農業試験場跡地の農試公園に隣接した、自然豊かな美しい街並みです。地域の人々は、温かく協力的で、子どもを皆で育もうという意識が感じられます。

学校教育目標は、「未来社会を築く力を身につける子どもの育成をめざして」です。開校以来、国際理解教育に力を入れていきます。昭和五十八年からは、毎年、夏と冬の年2回、「北大留学生との交流会」を開催してきました。コロナ禍においても、令和三年十二月は十六名、令和四年六月は三名と、参加人数は少なかったのですが、多様

な国の留学生が来校し、全校児童と遊びや文化を通して交流することができました。また、これまで国際理解、社会科、理科の全道規模の研究大会の開催を引き受けています。「八軒西小教育実践合評会」は、三年周期で開催しています。目指す授業像、子どもの姿を全職員で共有し、研鑽し続けています。

◆研究の概要

令和四年七月十五日には、「自他とつながり、しなやかに学ぶ子の育成」を研究主題とする、「第十二回八軒西小学校教育実践発表会」を開催しました。コロナ禍の中、一教室参観者十名以内という制限を設けつつ、百二十名以上の参会者を迎え、ご批正をいただいたところ

です。本校の研究は社会科に特化しているわけではありません。まず、教師一人一人が、授業力向上に向けての自己課題を決めます。その上で、学年、子どもの様子、自身のキャリアと照らし合わせ、どの教科を切り込み口に授業研究を進めていくか、一人一人に委ねられるのです。コロナ禍3年目、コロナで失われたものを求めるのではなく、自ら考え抜く自立した学びを求

め、問題を追究する中で柔らかさと強さを併せもつ姿を求めている実践発表会でした。

社会科の授業については、多様な考えをつなぎ共に学び合う

場と、問題を確かに解決し納得解を得る場を設定し、三本を公開しました。成果と課題を踏まえ、十月二十七日の全小社北海道大会に生かすべく、研鑽を重ねて参ります。どうぞよろしくお願い致します。

第二会場

札幌市立宮の森小学校

校長 加瀬 富久



◆学校紹介

本校は、JR札幌駅より西に約七km、円山川と琴似川により形成された複合扇状地の端に位置する、閑静な住宅街の中にあります。校名の「宮の森」は、昭和初期に秩父宮様、高松宮様が当地を訪れスキーを楽しまれたことから、付近一帯を「宮様の森」と呼ぶようになり、地名が「宮の森」となったことに由来しています。昭和四十七年の冬季オリンピック札幌大会にお

いて、金銀銅メダルを独占した七十m級スキージャンプ競技が開催された「宮の森シヤンツェ」は、全国的に有名です。

本校では、昭和三十三年の開校以来、自校の実践研究発表会の開催をはじめ、各教科等の全国規模、全道規模の研究大会をお引き受けしています。社会科では、「平成九年度 全国小学校社会科研究協議会研究大会 北海道大会」の会場校として全国の先生方にお越しいただきました。四半世紀の時を超え、再び本校において本大会が開催される喜びを感じているところで

です。学校教育目標は『「かしこくやさしくたくましく」我らの宮小』とし、それぞれ確かな学力、豊かな人間性、健康と体力を兼ね備えた、愛校心あふれる子どもの育成を目指しています。本校は本州各地との転出入の多い学校ですが、その子どもたちから「とても思い出深い経験のできる学校でした」との想いを寄せていただいています。

◆研究の概要

令和三年度に開催した実践研究発表会では、研究主題「子どもが仲間と『知』を創る学習」の具現化を目指し、「学びがい」

をキーワードに七つの教科等の全二十四実践を公開しました。この時期は感染状況が収束を迎えていたことから、参加人数を制限させていただきながらも、各教科等を研究分野とする先生方をお招きしました。

社会科部会では三実践「消防出張所長の立場からその判断を問う」「福井県鯖江市の持続可能な眼鏡づくりの在り方を問う」「伊能忠敬の業績から蘭学者たちの貢献の意味を問う」内容を公開し、参会者より多くの御批正をいただくことができました。

今年度は、三か年継続研究の初年度として、校内研究の方向性を、「意志をもった学び」を通して「変化に対応する子ども」を育むための効果的な手だてについて、「個別最適な学び」と「協同的な学び」の一体化から模索しているところです。

社会科部会では、昨年度までの取組で整理したテーマの確実性を高めることと、新たなテーマの設定の可否を検証するため、今年度は四実践を公開し、更なる検証を進めます。これには、本大会での実践公開からの成果も参考にさせていただけま